

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鳥羽高等学校 】

1 実践テーマ	【 I IV V 】
2 実施対象者	全日制普通科 スポーツ総合専攻3年（男25名、女12名 合計37名） 文科スポーツコース3年（男4名、女5名 合計9名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ スポーツ科学概論 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020年東京オリンピック・パラリンピックに様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。
5 取組内容	（1）2～3人程度のグループを作り、オリンピック・パラリンピックに関してそれぞれが主体的にテーマを掲げ調査をした。調査したものをパワーポイントにまとめ、7分程度でプレゼンテーションを実施した。 （2）パラリンピック種目である、シッティングバレーボール、ゴールボールを実践した。
6 主な成果	取組内容（1）についての生徒の感想など ○オリンピック・パラリンピックの歴史を知ることができた。 ○オリンピック・パラリンピックの組織や開催国の決定や大会の運営まで、支える側の活動を学ぶことができた。 ○オリンピック・パラリンピックがもたらす様々な効果を学ぶことができた。 ○テーマ設定の段階から、様々な角度からオリンピック・パラリンピックを捉えることができ、知識、理解を深めることができた。また、オリンピック・パラリンピックが抱える問題点についても言及できるようになった。 ○2020年東京オリンピック・パラリンピックを開催されるにあたり、生徒自身が具体的な参画をイメージすることができた。 ○パラリンピックの競技種目を知ることができ、興味・関心を持つこ

	<p>とができた。また、様々なカテゴリーに分かれて競技が実施されていることも知ることができた。</p> <p>○日本のパラリンピック競技レベルが高いことがわかった。</p> <p>取組内容（２）についての生徒の感想など</p> <p>○けがを防止や、障がいの特性を考慮されルールが細かく定められていることが実際にプレーをしてみてよくわかった。ゴールボールは、肢体だけでなく、五感もフルに使いプレーするので意外と疲労した。</p> <p>○シッティングバレーボールは、ルールがわかりやすく、プレーの難易度的もそれほど難しくなく、またある程度の簡易な用具でできるので、普及することも大いに可能であると思った。</p> <p>○障がい者にもできるたくさんの競技があることを知ってもらい、誰もがもっと気軽に楽しめるような環境づくりをしなければいけないと感じた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○事前学習の中で、様々な視点からオリンピック・パラリンピックを捉えられるようにし、多種多様なテーマに設定につながるようにした。</p> <p>○健全者と障がい者の特性に触れながら、競技をすすめていく中で大切にしなければいけないこと（ルールなど）や競技中で様々な発見ができるように事前学習を行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○継続的に取り組む事で、生徒達の具体的な参画をイメージすることにつながる。</p> <p>○支える側やパラリンピック出場者からの講演会などがあれば、オリンピック・パラリンピックの捉え方の幅が更に広がると考える。</p> <p>○競技の様子や競技場などの見学、競技用具に触れるなど、実際に肌で感じる経験や、目で見て考えさせる事も必要であると考え。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○来年度も引き続きを実施しようと考えている。</p>

